



# FRIENDS

The Friendship Force of Saitama 会報 第97号 (2017)

<http://www.ffiisaitama.com/>

## ドイツ渡航 Varel と Lubeck

2017年9月3日～20日

北ドイツの2都市を訪問して AC 外山哲代



今回は、9月3日(日)から20日(水)までの、18日間の日程で、ドイツ北部のファーレルクラブとリューベッククラブとの交流を行った。

ファーレルクラブとの交流は、バンクーバーの世界大会で、原田会長と西村ご夫妻がオレゴンの Tedさんと Ritaさんに、ファーレルクラブ会長の Birgitさんを紹介して頂いて、同クラブが埼玉クラブの渡航希望を受け入れて下さることになった事が始まりである。また、マラケシュの世界大会で、西村ご夫妻が、リューベッククラブの Inaさんと知り合い、その結果、ドイツ北部の2都市のクラブとの交流が実現することになった。ファーレルクラブでは、ホストの家は Varel とその周辺の Jever, Oldenburg, Wilhelmshaven と南北に約 50 キロを超える広範囲にあった。ホストの車で、集合場所に向かう途中の田園風景と空の色、雲の大きさ、美しさは一生忘れる

ことはできない。ホストと共に食事や、おしゃべりを楽しみ、ドイツ人のライフスタイル、文化を間近に見て、体験した一週間。主人と私を彼らの生活に組み入れて、夕暮れが遅いドイツの夜に屋内でのフォークダンスクラブの踊りの輪に加えて下さったり、また、ホストがアコーディオンで伴奏をしている歌のクラブに連れて行って下さった際には、音楽の趣味を生かした人生の楽しみ方が心に残った。ファーレルから、リューベックへは、チャーターバスでおおよそ 3 時間で到着した。リューベックの旧市街に近づくと、ガイドブックで見たあのホルステン門が中世そのままの姿で私達を迎えてくれた。石組みの堅固な門を見た時に、リューベックは同じ北ドイツでもまた違う趣のある歴史を感じさせる都市であることを実感した。世界遺産に指定された街並みが残る旧市街をホストたちに案内され、中世から続く教会や家並み、建

造物を見学しながらの街歩きは、素敵な思い出となった。ドイツは都市ごとに特徴があり、ドイツを再訪したいという思いを抱かせる旅であった。

最後に両クラブのホストコーディネーター達が、私たちのために一所懸命にアレンジを下さったことに感謝をしたい。

### 《日 程》

9月3日 羽田発 ブレーメン着 ホテル泊  
 4日 午前 ブレーメン観光後 ファーレルクラブ各ホスト宅へ  
 ↓  
 ファーレルクラブと交流  
 ↓  
 (ジェイドベイのクルージング、北海方面へ日帰りバス旅行等)  
 11日 リューベックへ移動 ホテル泊  
 12日 リューベッククラブ各ホスト宅へ  
 ↓  
 リューベッククラブと交流(ハンブルグへ一日観光、  
 ↓  
 バルト海に面したトラヴェミュンデへ日帰り旅行等)  
 19日 リューベック発 20日 羽田着

### 《費 用》 単位万円

航空券等	: 21.1
ホテル 2 泊	: 1.8
バスチャーター	: 1.1
FF 関係等	: 8.1
計	約 32 万円



## 初めてのドイツ渡航

## 杉本 睦子

一カ月前、Lubeck の HC より絵葉書を戴き、心が躍るような気持ちで羽田を発ち、最初に訪れた町が北海と空の青さを基調する紋章をもつ北ドイツの Varel です。私の滞在場所は Varel から車で 20 分、ビールでも有名な人口 14,000 人ほ

どの小さな街です。滞在先は、幼稚園の先生を退職し、9年前にご主人に先立たれ、現在は猫と二人暮らしの笑顔の素敵な 71 歳のご婦人のお宅でした。早朝、ストアーに出かけますと北ドイツ特有の挨拶言葉「Moin」を耳にします。フリジア語の「美しい」を意味する「MOOI」が起源だそうです。現在は「お早う、今日は、今晚は」の挨拶を兼ねる言葉になっています。皆さんの「モイン、モイン」の挨拶言葉がすっかり板についたころには次の滞在地への移動です。バスに乗ること二時間半、世界遺産の街 Lubeck に到着。赤レンガのゴシック



様式の建物がバランスよく立ち並び、中世にタイムスリップしたかのようなでした。中でも心に強く残るのがホルステン門です。1478 年に外敵を防ぐ要塞門として建設されました。トラヴェ川沿いには塩の倉庫が立ち並んでいます。昔は塩が大変高価で、驚くことに樽二つで家を一軒買う事が出来たそうです。この岩塩を利用してバルト海で獲れたニシンを塩漬けにし、それをヨーロッパの南方に売ることによって繁栄したといわれています。ホストの方は農業技術者としての仕事を持ち、コミュニティーガーデンで雨水を大きな甕にため、それを上手に利用して野菜や果物を栽培し、自給自足を試みる 61 歳の女性の方でした。ホストの方の温かい心配りのおかげで北ドイツの生活を満喫出来ました事を大変嬉しく思っております。最後に、この旅行に色々ご準備をして頂きました役員の方々に深く感謝申し上げます。

## Danke Schön!

## 村松 江伊子

私がお世話になったホストファミリーは Varel から 25 kmほど北にお住いの Becker ご夫妻でした。

渡航前の交換メールによると、ご主人の Rainer は海軍航空隊を退職して現在は通訳等されており、又奥様の Gila は彫刻家との事でしたので、そのようなアカデミックなご家庭に私のような、がさつな者がうまく会話していけるのか、少々不安でもありました。しかし、そんな不安もお出迎えの中にお二人を見つけ、駆け寄ったその瞬間から、たちまちかき消されてしまいました。

日中は、バス旅行やビール工場見学等の盛りだくさんのスケジュールを楽しみ、夜は美しいテーブルセティングで美味しいディナーと楽しい会話を心ゆくまで堪能し、あっという間に1週間が経ってしまいました。いつも泉のように話題が付きないう博学な Rainer の話は多岐に渡り、大変興味深いものでした。そして Gila とのお二人の仲はいつも熱々で、お互いを信頼し



あうその姿は本当に素晴らしく、何かグッと来るものがありました。

このような中で、私は夫婦の絆、家族の絆、友達の絆、そして FF の絆の強さを実感しました。

今回この exchange に参加させていただいて、お世話になりました FFVarel の皆様、FF 埼玉の皆様に心から感謝しております。Danke Schön!

## 見知らぬ人にも「Moin」の挨拶

## 宮城利枝子

9月3日から9月20日迄のドイツ渡航初日、ドイツのファーレルに着き、ホストの出迎えを受けました。私のホストは30代で、私の子供と同世代のカップルでした。共働きの為に昼間はあまり一緒に過ごす事は出来ませんでした。でも、浜田さんのホストと昼間は一緒に楽しむ事が出来ました。夜はゲームをしたりしました。ホストの Egest は出勤が早いため、パートナーの Christan と朝食を食べ、夜3人で夕食後少量のリキュールを飲んで寝るという毎日で、とても熱いおもてなしを受けました。



次の訪問地リューベックにはバスで移動しました。こちらのホストも40代位の共働きご夫妻で、しかも奥さんは智子さんと言う宮崎県出身の日本の方でした。最初は期待と戸惑いがありましたが共働きにも関わらず、一生懸命に私に接して下さいました。ドイツに嫁いで7年余り、今は車通勤しながら日本語を時々忘れてしまうくらい、ドイツに溶け込んでる様子。ここまでに相当のご苦勞が有ったかと思います。そんな彼女を夫 Stephen が優しく受け止めてくれるそんな素敵なホストでした。別れ際にはウルルン滞在記になりました。豊かな自然と、昔ながらの建物の調和した美しい街ドイツ。人口2.5万人の Varel は、初めて会った見知らぬ人にも「Moin」と言葉を交わすとても親しみ易い所～玄関先にも「Moin」の看板が。最後に渡航された FF 埼玉の皆様、2週間大変お世話になり有り難うございました。外山さん、初めての AC 大変お疲れ様でした。

## それぞれの memories

### 濱田 聖子

ホストのゲストノートを見ると、25年近くの滞在者たちの感謝のコメントがありました。朝食も夕食も、ハムや、チーズ果物など盛りだくさんでしたが、これは特別に気を使ってくれていたと後でわかりました。普段はシリアルに、バナナぐらいの朝食だそうです。

### 原田 史

ファーレルのホストは妻が会長、FFI 理事。夫は市長。多忙な二人。でもハンドボールの試合に行ったり楽しかった。リュubeckの stay 先はエレベーター無しの4階で眺望は素晴らしく、上り下りには泣かされた。

### 小林 恵美子

リュubeckのフリーデイでは、杉本さんと二人でバスに乗り、リュubeckの旧市街を足の向くまま散策しました。まだ訪れてない教会を見学したり、アクセサリーショップでお気に入りを見つけたり満足のいく一日でした。

### 高堂 綾

今回の交換は、ドイツの美しい風景よりもホストのお二人の温かいおもてなしと生き方に感銘を受けました。私もゲストを迎える時には、相手の方の心に残るおもてなしに努めたいと思います。



### 道江 邦利

北ドイツの美しい風景を堪能しました。牧草地あり、ヨットあり、歴史ある街並みあり、絵画を鑑賞した気分でした。自転車道が市街地でも田舎道でも整備されていたこと。電柱がない景色はいいですね。街中では4時過ぎから帰宅ラッシュの様子、日曜日に開店しているのは、本屋とパン屋。不便なようですが、豊かさを感じました。温かい omotenasi に感謝。



### 外山 竹治



HC ギズラさんのご主人ディーターさんはボランティア消防団のリーダー。Jever にある博物館には、10台の旧式消防車が磨きあげられ、動かせる状態で展示。維持修繕がご主人のお役目。消防士の結婚式にその消防車で駆けつけるとの事。

### 西村 純枝

ファーレルの墓地は、不安定な天候が幸いしてか常にシャワーに見舞われてまるで、花壇のよう。たまの墓参りに心痛める私には、理想のお墓の景色。リュubeckでは、夫の診察オマケつきで毎晩極上ワイン至福ステイ。



### 池田 完之

国土は山少なく平地広く地震無く、Varel/JeverやLubeckのホストは庭付の家で質素だが豊かに生活、歓待を受けた。Lubeck は世界遺産・ハンザ同盟の歴史、Bothmer Castleの歴史、東西ドイツの壁や監視塔、外国船が行きかう Trave 川河口港に感銘を受けた。



### 道江 幸江

憧れのドイツに行けてラッキー！北部の海拔0メートル地帯のどこまでも続く牧草地。手入れの行き届いた庭、窓には白いレースのカーテンと彩とりどりのお花。美しい街並みに癒されました。ホストのおもてなしで夜には、温かいお食事 スープ、ほうれん草のキッシュ、クリームシチューなどに大感激でした。



## 池田 尚子

忘れられない風景と素晴らしい考え。北海に沿った長大な堤を利用した牧草地に放牧された羊。こののかな美しい風景は、羊が堤を歩くことによって踏み固められモグラの穴をつぶし強固な堤になり、おまけに羊が草を食べることによって草刈りまでこなしているそうです。



## 大熊 幸雄

質素な食事、重厚な建物、豊かで堅実な生活、街中の緑、風力発電のブレードと放牧牛の風景、Niedersachsen の広大な平原、北ドイツの小都市、中都市 Lubeck、大都会 Hamburg の多様な生活を体験した。German toilet is chilly. I miss Japanese washlet. I confirmed Germany is a great country.



## 西村 介延

Varel ではホスト宅が Oldenburg にあり、道路のブロックには連行されたユダヤ人の名前が刻まれていた。また Lubeck では、旧東西ドイツを分断していた旧国境跡に建てられたミュージアムで、当時の厳格な国の警備の状況を見て、歴史を忘



れないようにとのドイツ人の意志が感じられた。

## 2018 年の受け入れと渡航は？

2016 年、日本大会開催の年を挟んで、2015 年から 2017 年までの 3 年間は、渡航 1 回（2 か所）、受け入れ 1 回が続きましたが、来年・2018 年は春と秋の 2 回の受け入れが復活します。

渡航は 20 名前後のメンバーの体験となりますが、受け入れはクラブの総力を挙げて取り組み、楽しみを共有する一大イベント。来年は期待できますね。

### 受け入れ

#### ■3 月 22 日（木）～28 日（水）カスタートンクラブ（Casterton）#14289

カスタートンはオーストラリア・ヴィクトリア州の南西部でメルボルンから 300 キロの農業地帯だそうです。人口は約 2,000 人。会員は 25 名。渡航を楽しみにしているとのこと、2015 年に静岡クラブを受け入れ、今回は埼玉の次には静岡に向かいます。

#### ■11 月（日は未定）ファンガレイクラブ（Whangarei）#14216

ファンガレイはニュージーランド北島の北部にある都市で、人口 51,900 人。ノースランド地方の中心都市。商業港・リゾート地・保養地としても有名。クラブは 1985 年設立、79 人の会員数。去年の英語研修を受け入れた活発なクラブのようです。

### 渡 航

■6 月 11 日（月）～18 日（月）トロントクラブ(Toronto)カナダ、19 日（火）～26 日（火）グレーターシンシナティクラブ（Greater Cincinnati）アメリカ合衆国オハイオ州。トロントクラブは 2015 年受け入れのリターン渡航になります。懐かしい顔に 再会できます。シンシナティはオハイオで 3 番目に大きい都市で人口 29 万余。埼玉クラブとしては未知の地域で楽しみです。（原田 史）

## 世界大会 40 周年記念マンチェスターに参加して

高堂 綾

今年の年頭に、世界大会参加に目標を立て2017年の活動に気合を入れてのスタートでした。世界大会の申込は6か月も前から早々に申し込み、ドイツのホームステイへと夢は広がるばかりでした。しかし蓋を開けるとFF埼玉からは、誰一人として世界大会の申し込み者はなく、その上世界大会に申し込んだアイルランドツアーは、人数不足でキャンセル、何という事でしょう！夢に描いたヨーロッパ旅行は、心細い一人旅となりました。この様なことで怯んではと奮起して計画の練り直しをしての旅となりました。

到着時刻は、ウェルカムパーティー開始時間に間に合わず、会場までのタクシーを飛ばしながら気持ちは焦るばかり(英語力不足、参加者の方々とのコミュニケ



主催クラブは東京で西東京・埼玉・Mt. 富士山梨・武蔵野目黒の各クラブから46名の参加があり大学の教室で和やかに会議が進められた。

FFI・FFJ の金元さんから用語変更や英語研修についてなどの報告。関東 FR(ブロック代表) 沼さんからはストップオーバーについて検討中であるとの報告があった。各クラブからは今年度の国内外の交流に関して成功した点、今後の方針などの報告があった。

グループ討議も活発で近隣クラブとの絆を再確認する良い機会となった。

ーション等々・・・) 今回の参加者は、世界各国から325名の会員が集まりウェルカムパーティーは、賑やかに始まっておりました。その中に少し遅れを取りましたが、誰もが笑顔で迎え入れて下さり満席状態の中に空席を見つけ滑り込み、いつの間にか打ち解けている私がいるのです。会話もどうにかこうにか途切れないのは、不思議です。とにかく話しました。会場のいろいろなところからAyaと声が掛かり楽しいスタートを切った世界大会でした。

FF 本部から会員宛にメールが送られた様に、翌日の opening は、surprise で会場全員参加のアフリカの太鼓を Drum Café UK というグループのリードで打ち出す太鼓のビートは、心に響きました。このアフリカのリズムは、悲しみ、苦しみ、愛の力等を訴えているようで、会場の音が、世界に向かって激しく、力強く、様々な困難を乗り越えていくエネルギーになりそうでした。会の初めにこの素晴らしい企画を決めたマンチェスタークラブに敬意を表したいです。この太鼓の音色は、今大会で最も印象に残った事柄です。

皆様も是非次回2019年のプエルトリコ世界大会に参加して下さい。今まで経験したホームステイとは違う素敵な経験を得ることができるでしょう。今回の世界大会で私が、挨拶できた皆様よりFF埼玉の皆様によりしくとの伝言を受け取りました。



## 関東ブロック会議報告

西村 純枝

(7月1日 女子栄養大学にて)

## イベント(3) まんとう作りに参加して

小林

食のイベントとして、まんとう作りを6月25日与野本町コミュニティセンターで行いました。沼さんの教え子、埼玉大学のイタリア留学生等を含め30人が参加しました。昨年3月にFF埼玉クラブが台湾の台中を訪れた後、FF高雄クラブの蔡さん宅に石井さんと立ち寄り、本場台湾のまんとう作りを習ってきました。蔡さんは2014年2月に宮城クラブと共に渡航した石井さんのホストです。蔡さんのまんとう作りはスケールが違います。セメント袋のような10kg入りの小麦粉を取り出し100個ほど作ります。

今回のまんとう作りは4種類用意しました。台湾産の落神花でほんのり赤く色付けした生地、カボチャの粉入りの生地、黒ごま入り、小豆あん入りです。もう少し時間に余裕があれば、皆さんにまんとう作りを

ゆっくり楽しんで頂けたかなと思いました。高堂さんの指導のもと、大蒜スープが一品。石井農園の玉ねぎ、完熟トマトでサラダが一品。は帝国ホテル仕立ての杏仁豆腐です。石井さん、道江さん、小林で事前に高堂宅で予行練習をした思い出深い企画でした。謝謝。



## イベント(4) ドイツ文化セミナーとドイツ料理・ビールの集い 西村



7月9日に、今年のドイツ渡航への参加者を中心に、銀座ライオン大宮店で賑やかに‘ドイツ料理とビール’の集いに、22名が参加し、盛り上がった。

今回初めての試みとして、第一部・訪問先の文化や歌、簡単な会話を学び、第二部・親睦会として、開催され、ビール片手にドイツ・ソーセージを堪能し多いにおしゃべりをして楽しんだ。

## イベント(5) 夏を踊りで乗り切ろう!

秋

今年の夏は雨が多く蒸し暑い日が続く中で8月のイベントが行われました。“夏を踊りで乗り切ろう!”のキャッチフレーズの通り踊りに汗しながら皆様と楽しい交流が出来ました。鴻巣在住の熊谷ご夫妻の南京玉すだれとどじょうすくいの実演の後、みんなで短い時間でしたが体験しました。

ほとんどの方が初めてでとても興味を持って頂きました。おてもやんは私達担当者が事前にYouTubeで練習してみんなで輪になって踊りました。音量が上がらず踊りづらいところがありました。皆がすぐに覚えてくださいました。西村さんの

お宅にホームステイをしていたアシュリーさんも参加してくださりルイジアナ文化のレクチャーの後、米国南部の踊り二曲も童心にかえて楽しみました。

普段運動不足の生活ですが、みんなで踊ることの楽しさを感じました。高堂さんのマドレーヌも大好評で、美しかったです。たくさんの応援のおかげでイベントが無事に終了したことに感謝しています。





## 新入会員紹介

内藤一美さん(夫) 秀子さん(妻) 美香さん(娘) のご家族が入会されました

はじめまして、新入会させていただきました内藤です。長女のお友達の竹下朋代さんのご紹介で家族3人で入会させていただきました。3人とも語学は苦手ですが海外の方との交流や会員の皆様にお会いできる事を楽しみにしております。宜しくお願ひ致します。



## お知らせ

### 会則を見直しています

☆FF埼玉クラブが発足以来25年目を迎え、運営面で現状に合わなくなった箇所を見直しています。この機会に会員の皆様にも会則に関心を持っていただければと思います



### FF用語 呼称変更しました

Exchange Director (渡航ED) ⇒ Ambassador Coordinator (AC)  
Exchange Director (受入ED) ⇒ Host Coordinator (HC)  
Exchange (交換) ⇒ Journey (交流)



### HPをリニューアルしました

新しいアドレスをお知らせします。  
<http://ffsaitama.com/>



### 訂正してお詫びします

96号Newsletter 訃報記事において、寒川文光さんがお亡くなりになった日は、正しくは4月16日でした。



## 今後の予定

- 10月22日(日) 第10回 理事会 (10:00~12:00) 下落合公民館研修室  
会則見直し小委員会 (13:00~15:00) 下落合公民館研修室  
11月19日(日) 第11回 理事会 (10:00~12:00) シーノ大宮9F学習室3  
11月26日(日) イベント ランチと“旅の達人”のお話 午後 with youさいたま  
12月 3日(日) 第12回 理事会 10:00~12:00 シーノ大宮7F講座室3  
12月17日(日) イヤーエンド・パーティ (FFI 40周年、FFS 25周年を兼ねる)  
午後 与野本町コミュニティセンター

編集後記 ~記事に想いを載せて~

編集作業でワクワクするポイントは、FFSの皆さまから戴く、原稿や写真を拝見する瞬間です。濃密な時間を経ての感想は、そこに行かれなかったとしても、とても臨場感があります。参加できたら、さらに！です。そして原稿に沿った写真や挿絵を添えるのもまた楽しみのひとつです。

パソコンを苦手と思っている方も伝えたい英語と同様で、必要なことから始めてみることで、いつの間にか触れるようになりますよ。広報をやりたいという方を募集しております。

これからも見やすい紙面を目指します！アイデアも募集中です。(H.N)

### 編集・発行

ザ・フレンドシップ・フォース・オブ・埼玉 事務局  
〒331-0815  
さいたま市北区大成町4-202  
TEL/FAX:048-664-2723  
発行:2017年10月下旬